

2019年3月29日

課題名：膵癌に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術の臨床的影響の検討

◆研究の目的と概要◆

すい臓の体部・尾部に存在するすい臓がんに対する手術治療として、従来は開腹での膵体尾部切除術が実施されてきましたが、近年腹腔鏡下での膵体尾部切除術も行われるようになってきました。腹腔鏡下手術は一般的に傷が小さい、出血量が少ないなどの様々なメリットがあるとされていますが、すい臓がんに対して腹腔鏡下手術が始まってからはまだ日が浅く、その臨床的影響は十分に明らかになっていません。本研究の目的はすい臓がんに対する腹腔鏡下膵体尾部切除術の治療成績を開腹膵体尾部切除と比較して明らかにすることにあります。

◆対象となる患者さん◆

2014年1月1日から2019年12月31日までに膵体尾部切除術を受けられた全ての患者さんです。そのほかの病院で同時期に手術を受けられた患者さんにもご協力をいただいております。研究期間は本研究開始後6年間です。

◆研究に使用される情報・試料◆

電子カルテから得られる情報（手術に関連した情報、腫瘍マーカー、抗がん剤の投与量、画像検査情報）を使用して研究を実施いたします。研究に関連したデータは本研究終了・発表後すくなくとも10年間は主な研究機関（京都大学医学部附属病院）において保管をいたします。

◆研究方法◆

上記情報を、患者さんの氏名などがわからないようにしたうえで、下記機関に対して電子媒体に入力し、直接手渡して提供します。

◆主な共同研究機関及び研究責任者◆

京都大学医学部附属病院増井俊彦医師が主体となって実施しており、現時点で全国3施設が参加しています。

主体施設のHP <https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院
外科 研究責任者 橋田和樹

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明